

## 助産婦資格100年に支えられて

— あすへの飛躍を考えよう。 —

理事 三井政子

(名古屋市立大学看護短期大学部助産学専攻)

現行の助産婦教育は看護における専門教育として位置づけられて久しい。私が保健婦助産学科教育に従事していた昭和45年のカリキュラム改正の説明会において、「助産婦教育は母子保健学を志向した専門教育であり、保健婦教育は看護基礎教育の補完教育である」とカリキュラム検討委員であった前田アヤ氏の改正の説明であった。以来、助産婦教育は平成2年の改正で助産学教育と改正された。その後5年経った現在において、高齢化・高度医療への対応強化に向けて4年の看護基礎教育で保健婦と看護婦の資格取得の統合教育、基礎看護として訪問看護（地域看護）、精神看護の新設、並びに教育時間数の単位数等の見直しについて、新たな改正が検討されています。

急速なテンポで高齢化社会を迎え、尊厳ある死の選択や医の倫理或いは人格の本質に関わることなどにも人々の関心がよせられ、看護には専門的知識だけでなく、豊かな人間性や幅広い教養、応用能力が求められるようになってきています。この社会要請をうけて、高等教育中央教育審議会は医療従事者の質的充実と高等教育の各地域の格差の是正が社会的な緊急課題として、看護系の大学化を進め、看護教育の潮流は変動しています。この大学教育では多様な価値観への対応とゆとりある効果的な教育をねらって、大綱化カリキュラムが組まれる現状です。助産学教育は大綱化教育の合理性のもとに、単位読み換えが多い現状です。平成7年4月、4年制大学課程41校中14校が選択科目で履修可能とされています。

一方、看護・助産職能の関係団体においても、各人の職能生活の充実・QOL・高度化

する医療に対応する生涯教育体制のあり方としてクリニカル・ナース・スペシャリスト並びにそれら進展拡大する自己領域研修の認定制度等が検討され、ダイナミックに社会は動いています。

かつてアメリカにおいて助産婦制度が否定され、今日の看護助産婦として蘇ってくるためには、女性のウーマンリヴ運動と先輩助産婦の並々ならぬ活動、医療費の高騰によるプライマリーケア政策と、宗教活動等々種々の条件に支えられて今日の看護助産婦の再生があるとのこと。某教授は「法律で否定されると、復帰・再生のためには100年を必要とする。日本の助産婦の現法は自律性の高い。この法を失わないように……」と自国の課題を述懐し、激励されたことばが想起されま

す。斯様な諸情勢の中で、21世紀の超高齢化社会と少産を迎える中で健やかな児を生み育て、納得のいく充実した出産の援助、また生殖機能に関わるライフサイクルの生活問題等への援助ができる専門家を育てる教育制度並びに役割が如何にあったら良いかを真剣に考えていかなければならない正念場を迎えています。看護基礎教育・専門教育・生涯教育の整合した体制に助産学をどこに位置づけるかを来春3月の学術集会のワークショップで「助産婦のあり方」についてディスカッションする計画を立てています。そして専門職としてアイデンティをもった教育・アンデンティのある人材の育成に向けて、あるべき方向を模索し、移行期の課題等についてもコンセンサスが見出せる検討を願っています。職能のコンセンサスあってこそ次への発展があります。

## 1995年度日本助産学会学術講演会報告

北京の第4回世界女性会議を機に来日されたM. ワグナー博士による学術講演、シンポジウムが9月1日に開催された。急な企画で、PRに十分な期間がとれなかったにもかかわらず、当日は定員350人の文京区役所のシビックホールがほぼ満席となる盛況だった。圧倒的に多かったのは臨床・開業助産婦、次いで助産婦学生、そして子供連れのお母さんやマスコミ、他の学問分野の研究者などが参加した。

助産婦雑誌で、マースデン・ワグナー博士を既にご存じの方々も多いことと思うが、USAでの小児科・公衆衛生学の教職を経て、1978年から約15年間にわたってWHOヨーロッパ地域事務局女性と子どもの健康部長の任にあった方である。

今回の講演は「母と子の未来のために－WHO出産科学技術についての勧告－」のテーマであったが、我々はまず、気さくな態度でスピーチされる博士の聞き取りやすい英語に感激した。

博士の講演は、主にその著書『出産マシンの追求』（近々、翻訳が予定されている）で指摘している出産への産科的介入に対する批判的見解を述べたものであった。

博士はまず、周産期死亡率の低下が、必ずしもこれまで我が国でも信じられてきた出産の場の病院への移行や、産科学の発達によるものではなく、様々な社会的要因が関与していたこと、これまで良いものとされてきた周産期技術利用のもつマイナスの側面を指摘した。また、合併症のない妊婦の出産の場として家庭より病院が安全であることについては、科学的には全く立証されていないと述べた。博士のこうした見解は、膨大な産科学データの綿密な検証に基づくもので、これまで科学的であるとされてきた多くのデータが必ずしも“科学的立証”に必要とされる要件を満たしていなかったことを強調した。

博士はまた、我々が日常の妊産婦管理で用いている超音波断層法、モニタリング、硬膜外麻酔やルティーンの処置についても、これらの出産技術が“機械が好きで、女性を信頼していない”、技術＝科学＝進歩と単純に思

い込んでいる医師たちが産科学をリードした結果であると指摘した。

日本の出産もこうした西欧の産科学の影響を強く受けている。助産婦が第1介助者であれば、不必要な介入は有意に減少することが科学的に報告されていることから、女性と助産婦が手を取りあい、自然な出産を取り戻すシステムづくりを社会に向けて訴えてゆく必要があると述べた。今回のワグナー博士の講演は、一貫して我々助産婦の現在の業務に対する問いかけであった。それとともに将来の助産婦のあり方に対するサポート、大きな味方を得た思いであった。

引き続き行われたシンポジウム「ともに創ろう！お産」は、毛利・堀内氏のリラックスした司会で進められた。パースエデュケーターの戸田氏は自然な出産、助産婦の仕事をサポートしてきたイギリスの女性産の活動を紹介し、情報公開と選択の必要性を指摘した。グループきりんの酒井氏は、母親達を感じる人為的な痛み現場で共感と支えがほしい、助産婦の腕を一人一人に合わせたケアに生かして欲しい、主役である母親たちの声に耳を傾けてほしいなどの要望を出された。教育の場からは園生がテキストの記述や現場の助産婦モデルの充実の希望を、臨床現場からは福井氏が大学病院スタッフ達のルティーンワークを見直す試みを報告した。

会場からは病院への移行の過程でルティーンの処置導人のいきさつ、パースプランを持ってない妊婦への教育の充実を望む声などの意見が交換された。まだこれからという時に時間切れとなり、ディスカッションにもっと話し合いたかったという声が多かった。

（文責・学術講演会企画委員 園生陽子）



母子保健・助産婦業務・助産婦教育に関連する諸般の動向

1. 平成7年6月より、厚生省医療関係者審議会保健婦助産婦看護婦部会主催で「看護職員の養成に関するカリキュラム等改善検討会」が開催され、11月下旬を目途に検討が行われている。目的、検討項目、部会の位置づけ、委員は下記の通りである。

(1) 目的

昨年12月にまとめられた少子・高齢社会看護問題検討会報告書において、看護をめぐる今後の課題として、訪問看護の進展や医療の高度化に対応できるよう看護職員の資質の向上を図ること及び少子化の中で看護職員を確保するために、看護婦等養成所の魅力を高めることの重要性が指摘されたところである。

養成所の魅力の向上に関しては、養成所の施設、教員、実習施設等の充実を図ること、養成所の創意工夫を図ることの必要性が指摘されるとともに、看護ニーズの変化に対応したカリキュラム内容の見直しと単位制の導入について検討することが提言されている。

そこで本検討会は、これらの提言を受けて、保健婦助産婦看護婦及び准看護婦のカリキュラムの改善、看護婦等養成所の教員等の人数及び配置の考え方、養成所の施設設備の充実、実習施設の充実等を図るため、規則等の見直しを目的として設置するものである。

(2) 検討項目

- ① 保健婦課程、助産婦課程、看護婦3年課程及び2年課程、准看護婦課程のカリキュラムの改善
  - ・人間科学、高齢者看護、在宅療養者看護、精神看護、社会福祉学等の強化
  - ・カリキュラムの弾力化
  - ・単位制の導入
  - ・4年間で看護婦と保健婦の受験資格を得られるカリキュラムのモデル作り
- ② 看護婦等学校養成所の教員等の人数、配置
- ③ 看護婦等学校養成所の施設設備
- ④ 実習施設
- ⑤ その他

上記①～④では、看護婦等学校養成所の設置運営を定めている、保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則、看護婦等養成所の運営に関する指導要領、看護婦等養成所の運営に関する手引きの見直しとなる。

(3) 検討会の位置づけ

- ① 本検討会は、医療関係者審議会保健婦助産婦看護婦部会のもとに開催するものとする。
- ② 本検討会の結論は、同部会に提出し、了承されれば審議会の意見とされるものとする。
- ③ 事務局は、健康政策局看護課に置くものとする。

—— 看護職員の養成に関するカリキュラム等改善検討会委員名簿 ——

井部俊子	日本看護協会副会長
今田拓	日本医師会常任理事
尾形誠宏	神戸市立看護短期大学学長
岡本喜代子	日本助産婦会事務局長
加古康明	西宮市医師会准看護学院学院長
梶田叙一	京都大学高等教育教授システム開発センター教授
片田範子	兵庫県立看護大学教授
清川美和	愛知県医師会春日井准看護婦学校教務主任
鈴木良子	文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官

関根 龍子	国立療養所東京病院附属看護学校副校長
妹尾 孝子	岡山県公衆衛生看護学校校長
中島 紀恵子	北海道医療大学看護福祉学部長
野口 美和子	千葉大学看護学部教授
堀内 成子	聖路加看護大学教授
松野 かほる	山梨県立看護短期大学学長
松丸 秀明	八幡医師会看護専門学院学長
宮地 文子	埼玉県立衛生短期大学教授
山田 里津	二葉看護学院学長

2. 8月20日と10月7日に全国助産婦教育協議会主催、日本助産婦会共催の、徹底討論会「助産婦教育制度を問う」が、下記の趣旨で大阪と、東京で開催された。

#### ▼討論会の趣旨

今般、厚生省健康政策局看護課において、昨年の少子・高齢社会検討委員会の答申を受けて、訪問看護の進展や医療の高度化に対応できる看護職の資質の向上を図ることと、看護婦等養成所の魅力を高めるために「看護職員の養成に関するカリキュラム等改善検討会」が6月に発足した。検討の目的は、カリキュラムの改善や養成所の教員数、施設・設備、実習施設の充実を図る規則等の見直しで、11月末に報告書の作成を目的としている。高齢化社会に突入した今日、高齢者への支援対策や看護者の能力強化は必要であるが、高齢者を支える次世代の育成、すなわち母子保健の強化を図ることも重要な政策といえよう。

この変動する時代の中で、母子保健を担う助産婦は将来を見通し何ができ、何を専門とし、どのような役割を担うのか、そのための助産婦の基礎教育・卒後教育はどうあるべきかを広角度から検討し、助産婦の責務を明確にする必要がある。

大阪と東京において、パネルディスカッションとシンポジウムを通して今日の問題を1人1人の助産婦が受けとめ、教育制度を思考し、参加者全員で自由討論して各自の考えを示してもらおう。

### 第8回日本助産学会ワークショップの開催について



日本助産学会理事長 近藤 潤子  
学術振興委員長 竹内 美恵子

会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、日本助産学会学術振興委員会開催の上記ワークショップは第8回を迎えることとなりました。

本学会設立10周年を迎え、平成8年3月17日に名古屋市立大学看護短期大学部三井政子教授のもとで、第10回日本助産学会学術集会並びに10周年記念事業が開催されます。平成5年度には日本学術団体にも登録を終え、助産学研究の成果が正当に認められる場を持つに至りました。いまや、助産学実践における研究の将来への方向づけに注意を払うべき時を迎えております。

改めて、助産学研究へのいくつかの課題を見直すことが重要であると思われまます。

さて、本年度は下記の日程で京都での開催となり、テーマは実践研究を中心に5つの領域に設定いたしました。各研究グループは、一定の研究成果を得るため、継続的に研究をすすめていくことを目指しております。

参加される皆様には、助産実践における研究の将来への方向を視座に、基調講演をはじめ

め、各主題別のワークショップを下記の通り実施致します。よりよい研究活動へとお役立て頂ければ幸いです。

皆様のご参加を心からお待ちしております。

記

▼日 時：平成7年11月25日(土) 9時～16時30分  
▼場 所：京都府立医科大学医療技術短期大学部看護学科  
京都市上京区清和院口寺東入中御霊町410  
TEL 075-674-4171

▼ワークショップ・プログラム

全体テーマ 「助産学研究の実際」

日 程

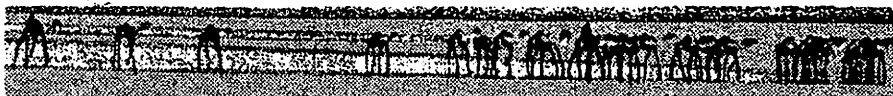
受 付	9:00
オリエンテーション	9:40
開 会	9:55
理事長あいさつ	9:55
基調講演	10:00～11:00
主旨説明	11:00
ワークショップ(グループ別)	11:05
昼 食	12:00 各グループ別で時間を設定
ワークショップ(グループ別)	13:00～15:30
全体討議	15:40～16:30
閉 会	16:30

基調講演 「研究できる問題と研究できない問題」

ワークショップ

- 領 域： 1. 助産学研究の基礎 研究過程  
コーディネーター：  
2. 助産学研究過程 文献調査と研究計画書  
コーディネーター：  
3. 母性心理学研究領域  
コーディネーター：  
4. 思春期における研究  
コーディネーター：  
5. 助産研究領域 助産診断

▼お問い合わせ先：徳島大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻  
竹内 美恵子 電話 0886-31-3111 内線 7291・7290  
FAX 0886-31-9612



## 日本助産学会 第24回 ICM大会参加ツアーのお知らせ



カナダで開催された第23回 ICM 大会時の研修ツアーが好評で、今回は是非研修ツアーを計画して欲しいとの要望がありましたので、第24回のオスロでの ICM 大会の参加を兼ねてオランダを中心に、主体的な助産婦活動をしている施設の見学訪問のツアーを企画しました。25名の団体として日新航空に計画書を作成して頂きました。見学施設などは、理事長が先方に交渉して下さっております。

1. 旅行日程：平成8年5月21日(火)～平成8年6月1日(土)
2. 旅行代金：1人当たり 310,000円  
 上記費用は25名以上を団体とした場合の費用で、平成7年9月現在の航空運賃、並びに現地費用で算出しております。  
 費用に含まれるものは
  - 航空運賃 エコノミークラス
  - 宿泊費 スタンダードクラス2名宿泊
  - 食事 朝食付き
  - 専用車代 送迎、移動、観光など、ガイド料含む。入場料等あるものは除く
  - 荷物運搬料 1人20Kg
  - 航空税 オランダ、ベルギー、ノルウェー
  - 旅行団体中のチップ、サービス料税金その他の団体経費、及び包括手数料
3. 利用予定航空会社：KLMオランダ航空
4. 旅行日程案：別紙
5. 第24回 ICM大会参加ツアーの申込  
 官製ハガキに住所、氏名、電話番号を明記して、日本助産学会事務局に申し込んで下さい。先着順に25名受け付けます。尚、ICM大会の登録は各自行って下さい。規定の用紙は、日本助産学会事務局にありますので、175円の郵券を添えて請求して下さい。
6. 登録料金

登録日 登録形態	1995年10月30日 以前	1995年10月31日から 1996年3月1日まで	1996年3月2日 以降
全プログラム 出席	4,000ノルウェー・クローネ (60,700円)	4,900ノルウェー・クローネ (74,300円)	5,900ノルウェー・クローネ (89,500円)
同 伴 者	1,400ノルウェー・クローネ (21,300円)	1,400ノルウェー・クローネ (21,300円)	1,400ノルウェー・クローネ (21,300円)

\* 1995年8月16日現在の換算レート(1ノルウェー・クローネ=約¥15)を使用しています。レート変動による増減もございますので、ご了承ください。

## 第24回 ICM大会参加ツアー日程(案)

日次	月 日	都 市	現 地 時 間	交 通 機 関	ス ケ ジ ュ ー ル	食 事
1	5月21日(火)	東京(成田)発 アムステルダム着	11:45 16:45	KLMオランダ航空 862便	空路、アムステルダムへ 着後、ホテルへ 〈アムステルダム泊〉	昼：機内 夕：機内
2 3	5月22日(水) 5月23日(木)	アムステルダム		専用バス	オランダ国内助産婦事情 及び病院等 視察 〈アムステルダム泊〉	朝：○ 昼： 夕：
4	5月24日(金)	アムステルダム発 アントワープ着	午前	専用バス	専用バスにてアントワー ープへ移動 市内観光 〈アントワープ泊〉	朝：○ 昼； 夕：
5	5月25日(土)	アントワープ発 オスロ着	12:20 15:45	KLMオランダ航空 394便 KLMオランダ航空 163便	出発までフリー 空路、アムステルダム経由 オスロへ 着後、ホテルへ 〈オスロ泊〉	朝：○ 昼： 夕：
6 10	5月26日(日) 5月30日(木)	オスロ			大会参加 〈オスロ泊〉	朝：○ 昼： 夕：
11	5月31日(金)	オスロ発 アムステルダム	11:55 13:40 14:50	KLMオランダ航空 162便 KLMオランダ航空 861便	空港へ 空路、アムステルダムを 経由、帰国の途へ	朝：○ 昼：機内 夕：機内
12	6月1日(土)	東京(成田)着	09:05		着後、解散	朝：機内

\*ご注意 発着時間、交通機関等は変更になる場合がございます。



## —ICMからのお知らせ— 国際担当理事 松本 八重子

## ICMオスロ大会会期中のワークショップのお知らせ

— 大会参加を予定されている方には下記のような機会もあります —

- 用語は英語のみ、無料
- 大会に登録している助産婦であれば、会場の定員数まで参加可能です。
- ワークショップは大会の全体会と同時進行で行われ、大会用建物内のいずれかの部屋を会場とします。
- 予めの申し込み書類の提出は不要
- テーマ別に会場、時間について、大会登録カウンター区域に掲示しますので、それに依って下さい。

## ◆ワークショップのテーマと概要

ワークショップのテーマは助産婦の国際的な関心により選択し、バンクーバーの第23回大会(1993年)と同じものもあるが、反復ではなく継続した内容となる。

各ワークショップは2時間

それぞれ助産婦の座長を置き、国際的に定評のある講師を配置する。

## A 倫理

1993年に採択されたICMの国際助産婦倫理規定の再吟味および各国での適用と懸念の提示。

## B 研究

本ワークショップの意図は、助産婦の研究者の国際的な資源ネットワークを構築することである。

## C 教育者

新生児の基礎的ケアに焦点を当て、本ワークショップでは助産婦の教育者のネットワーキングを図る；カリキュラムの開発と再開；および助産婦が周産期死亡を防止し、エイズの普遍的予防策を講じることができるよう教育する方法について探求する。

## D メディアと出版物の原稿

助産婦がメディアに接触し、メディアの原稿を書くことの手ほどきをする。本ワークショップに参加しようとする者は、エイズ/HIVについての記事を書いてくること。

## E 法律/規則

地球規模での助産婦の法規に関する問題と気がかりな点とされていることを提示する。また助産婦の国際的定義(ICM/WHO/FIGO 1992年)の範囲内での助産婦の役割拡大についても討議の予定。

## F 助産婦職能団体の結成

助産婦職能団体の結成と会員のニーズに応える発展についてを主に扱う。

## G 情報学と助産学における分類

助産学における分類と情報学の必要性とそれらのアプローチについて探求する。

## H 助産実践とエイズ

業務の発展とダイナミックスと職業上の保健問題につき提起し探求する。

## I 助産実践と新生児に不可欠なケア

WHOのMother-Baby Packageを枠組みとして問い、安全な母性と助産に新生児の分を取り戻す。



【阪神淡路大震災援助基金の報告】

ニュースレター17号で、標記の基金の募金を行い、8月31日で切りました。

会員の皆様より181,000円の募金を頂きましたので、予備費からの10万と、学会時の寄附金と全理事からの寄附金とを合わせた23万に追加して、本時の基金を日本助産学会として支援活動を行っている会員の方に送金いたしました。大勢の会員の皆様からのご援助を厚く御礼申し上げます。なお、今回の募金を下さいました方々は、下記の通りです。

笹崎	フミ子	高知女子大学	山下	浩子	橋本	奈津子	山本	貞子	
大谷	タカコ	小早川	和子	川崎	圭子	小木	曾みよ子	平澤	美恵子
宮中	文子	武者	文子	宮里	和子	土岐	初恵	近藤	潤子
窪田	吹子	大川	洋子	緒方	妙子	島田	啓子	原田	美佐子
賀久	はつ	岸	英子	中井	啓子	山本	真由美	松田	シズエ
田嶋	清恵	中本	朋子	藤本	照代	佐藤	志げ子	高田	昌代
幅下	貞美	高橋	里亥	大原	明子	神谷	整子	山本	順子
丸山	礼子	小島	泰代	杉山	みね子	近藤	和美	鈴木	和代
松岡	恵								(順不同)

【ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)の募金について】

ニュースレター17号で阪神淡路大震災援助基金と同じように、第24回ICM大会でのICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)の募金を行っておりますが、こちらは募金額が少なく、9月末で59,000円です。

1人当たりの参加費は、プレングレス・ワークショップの参加費を含めて、\$3,500(約560,000円)です。カナダに続いて是非、本学会からも基金をと、ICM本部からも期待されておりますのでご協力下さい。基金の口座は下記の通りです。

口座番号：00190-8-710931

日本助産学会国際基金

1口：1,000円

一人、何口でも結構ですので募金をお待ちいたしております。

なお、9月末までに募金を寄付下さいました方々は下記の通りです。ありがとうございました。(受付順)

平澤	美恵子	塩	鮎	季	恵
宮里	和子	松	岡		恵
高田	昌代	小	林	益	江
近藤	潤子	小	木	曾	みよ子
松田	シズエ	松	本	八	重子
小田切	房子	岩	本		美佐子



International  
Confederation  
of Midwives

24th  
Triennial Congress

26-31 MAY  
OSLO

**日本助産学会 10周年記念行事・  
第10回学術集会開催のお知らせ**

日本助産学会は、10周年を迎えました。第1日は10周年記念講演、第2日は総会並びに学術集会を開催いたします。多数の皆様の参加をお待ちしています。

理事長 近藤潤子  
学術集会長 三井政子

1. 期 日 1996年3月16日(土)・17日(日)
2. 会 場 名古屋市公会堂  
(名古屋市昭和区鶴舞一丁目1番3号・TEL 052-731-7191)
3. プログラム

第1日(3月16日) : 10周年記念行事

- ☆ 記念講演 仮題「将来の助産婦の役割と教育」  
英国テムズバリ大学教授 レズリィ A. ページ  
座長 近藤 潤子

第2日(3月17日) : 学術集会 メインテーマ "助産学の体系化に向けて"

- ☆ 会長講演 未定  
学術集会長 三井 政子  
座長 竹内 美恵子
- ☆ ワークショップ : テーマ "助産婦の将来像"  
座長 堀内 成子  
岸田 佐智
- ☆ 一般演題 : 口演
- ☆ シンポジウム : テーマ "よりよい助産をめざして"  
- 診断のプロセス -  
座長 新道 幸恵  
藤本 栄子

☆ 日程表

	9:00	11:00	12:00	14:00	15:00	17:00	19:30
第1日	9:30		13:30	記念行事	15:30	招請講演	17:30 親睦会
第2日	10:10 会長	ワーク ショップ	口 演	昼 食	総 会	口 演	シンポジウム

4. 学術集会参加・親睦会参加・昼食希望について

1) 参加費

10周年記念行事・学術集会参加費：8,000円  
 (1996年1月20日以降は9,000円)  
 親睦会参加費：5,000円

2) 10周年記念・学術集会・親睦会の参加申し込み方法

参加を希望される方は、参加費を下記に振り込んでください。  
 会員以外の方のお申し込みも歓迎いたします。  
 郵便振込用紙は、1人で1枚を使用して申し込んでください。  
 なお、年会費の申し込みは別です。お間違いのないようお願いいたします。

10周年記念行事・学術集会・親睦会・昼食代の振込先  
 郵便振込口座 00830-4-94126  
 口座名称 第10回日本助産学会学術集会

参加申し込みをされた方には、学術集会の討議を円滑にするために「収録」を事前にお送りする予定です。1月20日以降に振り込みをされた方は、振り込みの確認ができないことがありますので、払い込み票をご持参ください。

なお、宿泊ホテル、航空券、JR座席指定券のご希望の方は早めにお申し込みください。

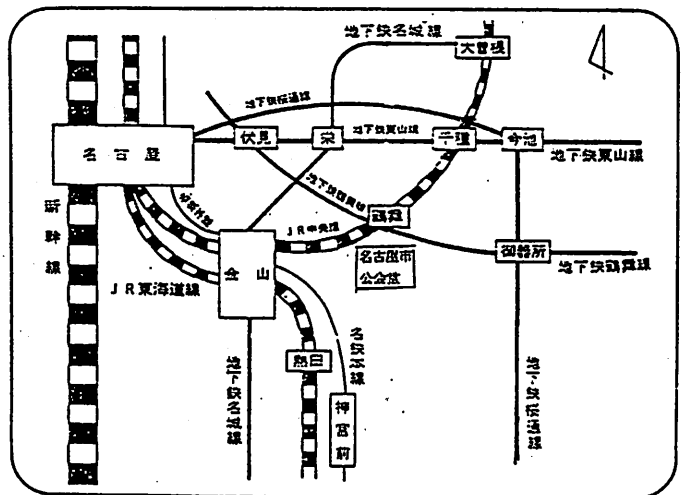
3) 昼食の申し込み

昼食用弁当をご希望の方は、あらかじめ学術集会参加費と同時に申し込んでください。1食1,000円、昼食券は事前にお渡しますので、当日その券と弁当を引換えてください。

5. 会場への案内

名古屋市公会堂  
 名古屋市昭和区鶴舞  
 一丁目1番3号  
 TEL 052-731-7191

JR：中央線鶴舞駅下車  
 名古屋地下鉄：鶴舞線  
 鶴舞駅下車  
 お車：名神高速道名古屋I.C  
 名古屋高速道吹上I.C  
 飛行機：名古屋空港から  
 名古屋駅まで40分



6. 連絡先

第10回日本助産学会学術集会事務局  
 〒467 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1  
 名古屋市立大学看護短期大学部  
 TEL & FAX 052-853-8067

## ▼ 訃報のお知らせ

平成6年6月から、事務局で的確に事務処理をして下さいました水本信子姉が、病を得て闘病中のところ、平成7年9月20日に逝去されました。生前のご尽力に感謝申し上げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## ▼ 日本助産学会事務局事務員（臨時）変更のお知らせ

平成7年6月より、助産学会臨時事務職員として、鈴木透子氏が採用されました。

勤務曜日：木、金

勤務時間：午前10時～午後4時

事務局だより



\* 経理事務を専門にして、日本助産学会と全国助産婦教育協議会の煩雑な事務処理を熱心に、時間を厭わず遅くまでお勤めして下さいました、水本さんが半年の闘病生活で逝去されてしまい残念でなりません。夜の9時、10時まで几帳面に仕事をしていらっしやっただお姿が脳裏をよぎります。心からご冥福をお祈りいたします。

\* 第24回 ICM大会に参加する方は、10月30日を過ぎますと登録料が高くなりますので、早めに登録して下さい。

\* 来年3月には、助産学会10周年記念を盛大に行います。特別事業として記念論文を募集しております。12月10日の〆切ですので、ふるって応募して下さい。助産学会の発展のためにも、大勢の方々から論文が寄せられますことを期待しております。

